

第20回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成26年3月6日（木） 10：00－11：10

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員

(2) 政府側

山本内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、後藤田内閣府副大臣、亀岡内閣府大臣政務官、松山内閣府事務次官、阪本内閣府審議官、西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官

4. 議事要旨

冒頭、山本大臣から以下のような挨拶があった。

山本大臣：

- ・平成25年度補正及び平成26年度予算については、本委員会でしっかりご議論いただき、厳しい財政状況の中でも所要の予算を計上でき、感謝申し上げます。
- ・戦略的予算配分方針で重点化事業と位置付けた準天頂、SSA、新型基幹ロケット、は着実に進んでいると認識している。広域災害衛星ネットワークについても、各府省との連携体制を構築して、しっかりと前に進めたい。
- ・今後とも、各省と連携しつつ、宇宙政策の司令塔として戦略的予算配分方針等を通じて、宇宙政策委員会の考え方を各府省の宇宙政策に反映していくよう取り組んでまいりたい。

(1) 宇宙輸送システム部会からの報告

宇宙輸送システム部会からの報告について、資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づいて山川部会長より報告を行った。

(2) 宇宙科学・探査部会からの報告

宇宙科学・探査部会からの報告について、資料2及び資料2参考に基づいて松井部会長より報告を行った。主な意見は以下のとおり。

○科学衛星^{エルグ}ERGは打ち上げが遅れた場合に、学術上の影響が大きいため、遅延しないよう進めねばならない。

○宇宙科学・探査ロードマップについては、宇宙輸送システムの在り方も踏まえながら、実現に向けた取組を進める必要がある。

(3) 宇宙産業部会からの報告

宇宙産業部会からの報告について、資料3-1、資料3-2、資料3参考に基づいて中須賀部会長代理より報告を行った。

(4) 調査分析部会からの報告

調査分析部会からの報告について、資料4-1、資料4-2、資料4参考に基づいて中須賀部会長より報告を行った。主な意見は以下のとおり。

○情報収集・調査分析体制の強化のためには、在外公館等の自発的取組を待つだけでなく、宇宙戦略室から在外公館等の関係機関に積極的に問題意識を伝える等の取組が必要である。

○重要国・地域については、宇宙戦略室においても担当をつけ、定期的に訪問して顔を売っていく仕組みを検討すべきではないか。

(5) 宇宙政策委員会の今後の検討体制

宇宙政策委員会の今後の検討体制について、資料5に基づいて事務局より説明があった。資料5「宇宙政策委員会の今後の検討体制（案）」については、委員会として了承された。

以上